令和５年度第１回鳴門市水道事業審議会　会議概要

開催日時：令和６年１月２２日（月）午後１４時００分から午後１５時３０分まで
開催場所：鳴門市水道会館３階第１会議室
出席者：審議会委員１１名
【岡田委員、開発委員、岸本委員、五島委員、近藤委員、芝野委員、中岸委員、原委員、森委員、森本委員、矢野委員】
鳴門市５名
【大和水道企画課長、寺前水道事業課長、長町浄水場長、事務局２名】
欠席者：審議会委員３名
【川口委員、田村委員、益岡委員】

開催次第
１　開会
２　委員紹介
３　会長及び副会長の選任
４　議事
（１）令和４年度決算状況について
（２）鳴門市水道事業ビジョンの進捗状況について
（３）鳴門市水道事業について～水道施設の更新状況～
（４）その他
５　閉会

会議資料
開催次第
座席表
水道事業審議会委員名簿
鳴門市附属機関設置条例
鳴門市水道事業審議会運営要綱
鳴門市水道事業ビジョン
【資料１】Ｈ２８～Ｒ７収支見通し
【資料２】鳴門市水道事業ビジョン　主な項目の取組状況
【資料３】水道施設の老朽化・耐震化対策について

会議概要

1　「２　委員紹介」について、各委員及び事務局の紹介を行った。

2　「３　会長及び副会長の選任」について、互選により、近藤会長、田村副会長に就任いただくことになった。

3　議事（１）について、資料１を用いて事務局より内容の説明を行い、質疑を行った。質疑の概要は別紙のとおり。

4　議事（２）について、資料２を用いて事務局より内容の説明を行い、質疑を行った。質疑の概要は別紙のとおり。

5　議事（３）について、資料３を用いて事務局より内容の説明を行い、質疑を行った。質疑の概要は別紙のとおり。

6　議事（４）について、今回の会議概要については、市公式ウェブサイトに公開することを事務局より説明した。

【別紙：質疑概要】

・議事（１）令和４年度決算状況について

（委員）

能登地震のように震度７の地震が想定されるが、管路や浄水場の耐震化をどこまで想定して行っているのか。それらの事業はいつ頃完了するのか、今後の見通しについて教えていただきたい。

（事務局）

管路の更新率について、１．５％を目標に年間８億円を基準に投資している。これは、６７年で一新するペースであるが、管路の耐用年数は４０年であり、今後も継続的に事業を行う必要がある。

浄水場については、令和８年４月の供用開始を目標としている。これまでの災害経緯を踏まえ、必要な耐震性、想定される津波など被災時を想定した施設設計となっており、供用開始に向けた工事を進めている。

・議事（２）鳴門市水道事業ビジョンの進捗状況について

（委員）

応急給水・復旧体制の整備について、防災訓練の実施とあるが、なぜ地元の水道業者にも参加してもらわないのか。どういった考え方で防災訓練を位置づけているのか。専門業者の視点が必要であり、いざという時には機能しないのではないか。

（事務局）

以前からご意見は伺っている。地元の水道業者を交えた防災訓練は望ましいと考えており、その実施内容を検討したい。

令和５年度は自主防災会等のご意向もあり、実施には至らなかったが、例えば、大塚スポーツパークやうずしおふれあい公園に設置されている緊急貯水槽を使った防災訓練などが考えられる。水道業者、地元の方々と協力して、効率的に対応できる体制となるよう、より充実した内容にしていくことが必要だと考えている。

（委員）

何を目的として訓練しているのか。訓練のための訓練になっているのであれば意味がない。実際には、人手（職員）が不足して対応できないケースが想定される。いざという時には地元の方々、水道業者との協力体制が必要である。

（会長）
　現状に即して、効果的に機能するよう、協力体制や信頼関係の構築が重要ではないか。スピード感を持ち、実行力のある体制づくりに取り組んでいただきたい。

（委員）
　隔月検針の導入、検針費用の削減について、１件当たりの検針単価があり、検針員に支払っているのか。

（事務局）
　検針、窓口業務、経理事務など、水道料金に係る徴収業務について、包括的な業務委託を行い、検針員１名あたりの単価が積算された内容となっている。

（委員）
　１名あたりというのであれば固定費となってコスト削減ができていないのではないか。

（事務局）
　毎月検針に比べ、隔月検針の検針戸数は少なくなることから、検針員の人員削減による費用削減となっている。

（委員）
　いかに検針コストを相対的に下げるかという点で、ガス事業では１件当たりのコストが明確になっており、一部固定費があり、１件あたりに応じる変動費がある。これらのコストを効率化するために自動検針システムを導入している。年末の挨拶で、四国電力送配電と自動検針システムの意見交換をする機会があったが、鳴門市の水道事業に対して話はなかったか。

（事務局）
　四国電力送配電からそのような話は聞いていない。

（委員）
　これまでも電話回線を通じた自動検針システムはあったが、昨今 LPWA（Low Power Wide Area）という、省電力かつ広範囲での無線通信が可能となる通信技術があり、安価に取り付けが可能となることから、普及が進んでいる。徳島市、神山町、もう１つあったが、県内の３市町が実証実験を始めている。
　以前にも、経営効率の一環として自動検針について提案したが、メーターが埋まっている等の課題があると聞いた。現在では、安価で取り付けられるタイプも普及し始めている

ことから、比較的取り付けが容易な集合住宅から取り付けるなど、費用対効果のある実施方法を検討してはどうか。毎月検針に戻す必要があるかもしれないが、２４時間、双方向にメーター指針の読み取りが可能になり、漏水の把握も容易となる、そういったことを含めて検討してみてはどうか。

収支見通しの資料だが、人口減少による水道料金の減少となっているが、人口減少による影響もあると思うが、世帯数は若干増えているように思う。この見込みの資料を出すのであれば、どのように見込んでいるのか、人口、世帯数の推移など関連する資料を出していただきたい。

（事務局）

検針方法等については研究していきたい。

ビジョンの水道料金収入については、策定当時の見込みでは、当時の人口から１人あたりの有収水量を算出し、見込人口をかけることにより算出している。次回のビジョン改訂時には、このような見込み方に加え、別の指標を比較検討するなど、再考していきたい。

（委員）

２カ月検針の場合、分割払いが可能となるのか。

（事務局）

奇数月、偶数月に分けた隔月検針となっているが、請求は毎月となる。例えば、検針後、１万円の請求となった場合、次回検針までに５千円、５千円の請求となる。

（委員）

給水袋の容量や大きさはどういったものか。どういった使い方をするのか。南海トラフ地震が発生した際は、給水袋などは提供いただけるものなのか。認知されていないように感じる。

（事務局）

６、１０ℓの給水袋を何千枚か備蓄している。主に１０ℓを使用しているが、数量については、今後もう少し増やしていきたいと考えている。

被災地の家庭においては、ポリタンクやペットボトルによる給水を行っていると聞いている。市内にも約２０箇所の応急給水拠点があり、防災訓練では、１ｔの組立式の仮設タンクなどを設営し、給水袋に入れるといった訓練を行っている。開発委員からご意見もあったように、色々な立場の方を含めた形で訓練を実施し、情報提供、認知度向上に努めたい。

・議事（３）鳴門市水道事業について～水道施設の更新状況～

（委員）

取水施設は更新されるのか。できる限りきれいな水を取水して欲しい。また、新しい浄水場の建物は、避難場所になるのか、あるいは避難所となるのか。

（事務局）

取水施設は、平成２６年頃に更新しており、当面の間はこの施設を使用する。新しい浄水場については、今後、避難場所として指定する予定である。

（委員）

送水管の改良状況を聞かせて欲しい。送水管全体としては、１１，１７３ｍの耐震適合管延長となっているが、鳴門市の水道の生命線である浄水場から中央配水池までの送水管について、耐震適合管の延長や耐震適合率はどういった状況か。

（事務局）

送水管の改良は優先事項であり、令和４年度から令和７年度において、鳴門市で最も口径の大きい木津送水管の布設替工事を行っている。浄水場から木津接合井まで約７．７㎞あるが、そのうち木津送水管の工事で２．３㎞を改良する予定である。令和４年度の実績として、送水管全体の耐震適合率は約３６％となっているが、引き続き、基幹管路の耐震化を進め、適合率の向上を図っていきたい。

（委員）

配水支管の耐震化が進んでも、基幹管路を改良しなければ、水が送れないことになる。その部分を早く改良していって欲しい。中央配水池については、耐震化はできているのか。

（事務局）

昭和５０年代に完成した施設であり、現行基準においては、耐震化できていない状況である。比較的新しい平草配水池、大谷配水池、島田島高区配水池　桧配水池の４箇所については耐震化が完了している。その他の施設においても、建設年度、現地での老朽化状態を確認しながら、管路更新と同時並行しながら耐震化を図る必要があると考えている。

（委員）

被災すれば、鳴門病院では様々な問題が想定され、その影響が大きい場所である。地下水もない場所であることから、一刻も早く管路の耐震化を進めて欲しい。

（委員）
　自治会でも要望しているが、震災時、妙見山配水池が壊れた際の水害を懸念している。

（事務局）
　妙見山配水池や中山配水池は、昭和４０年代に完成した古い施設であるため、耐震化に着手する最優先の施設であると認識している。現在は、浄水場整備事業に注力しているが、これらの配水池についても、年次計画的に耐震化を検討していきたい。

（会長）
　議事内容について、貴重なご意見があったと思うが、是非、検討いただき、今後の事業施策に反映していただきたい。